

緩和ケアチーム



2016年2月 通算30号

発行

横浜南共済病院 緩和ケアチーム
藤澤 順

編集

横浜南共済病院 緩和ケアチーム

放射線治療について

放射線治療は、その目的に応じて、総線量や治療期間、分割方法が異なります。目的は根治的放射線治療、予防的（準根治的）放射線治療、緩和的（姑息的）放射線治療があります。

根治的放射線治療とは、放射線治療によって、腫瘍を治癒に導くことができる線量を照射する治療をいいます。腫瘍が限局していて、局所療法で治癒の可能性があり、また腫瘍の大きさ感受性と周囲正常組織の耐容線量から、放射線治療の効果が十分期待できる場合に適応になります。（例：前立腺がんの前立腺照射）

予防的（準根治的）放射線治療とは、外科治療など他の治療法によって可視的な腫瘍は切除・摘出されていますが、周囲の細胞レベルでの腫瘍が残存している可能性があるため、再発リスクのある部分に対して放射線療法を行うことをいいます。（例：乳がんの乳房温存手術後の乳房照射）

緩和目的（姑息的）放射線治療とは、腫瘍が巨大であったり重要臓器に浸潤していたりするため、根治を見込めない症例に対して、腫瘍の縮小による延命、症状の軽減によるQOL向上を期待して行う治療をいいます。転移性骨腫瘍に対しては、80～90%とすぐれた疼痛緩和効果が得られ、骨折や神経症状の出現を予防し、ADLの維持、改善に有効とされています。転移性脳腫瘍に対しても、症状の改善・予防、QOLの向上、予後の改善効果が期待できます。その他、上大静脈症候群や門脈腫瘍塞栓などの血管閉塞（狭窄）や気道閉塞（狭窄）、消化管通過障害、消化管出血、咯血、不正出血などの症状緩和にも放射線治療は有効な場合が多いです。また、病巣の増悪による病的骨折や、腫瘤形成による脊髄圧迫が生じると麻痺・知覚障害・膀胱直腸障害などの脊髄神経障害の症状が出現します。その場合は早期の治療開始が症状の改善に繋がります。

放射線治療室は、西棟地下1階にあります。新しい治療方法も始まりましたので、興味のある方は是非見学に来てください。

（参考資料：放射線治療を受けるがん患者の看護ケア）

（文責 放射線治療室 専従看護師 宮下小子）

豆知識



医療用麻薬使用時の海外旅行について

海外旅行前に、麻薬携帯輸入（輸出）許可申請書に必要事項を記入の上、医師の診断書と併せて麻薬取締部調査総務課まで送付する必要があります。申請後、1週間から10日前後で許可書が送られてきますが、余裕を持って2週間前までに提出するようにして下さい。

申請書や、手続きの方法等は地方厚生（支）局のホームページ上にも掲載されています。

お知らせ



緩和ケア勉強会 口腔ケアについて

「がん患者さんの口腔内環境アセスメント・

ケア方法など」

2016年2月18日（木） 17:45～19:

場所：東棟2階 講堂

